

# ハーモニー

Harmony

第71号 2016年9月10日発行  
日本養護教諭教育学会

Japanese Association of Yogo Teacher Education

日本養護教諭教育学会

事務局：〒448-8542

刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学養護教育講座  
後藤研究室

TEL&FAX 0566-26-2491

振替口座：00880-8-86414

<http://www.yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp>

## 目次

第24回学術集会の誘いと企画紹介……………1	2016年度総会告示……………7
第24回学術集会プログラム……………2	第24回学術集会での「投稿奨励研究」の 推薦について……………7
プレコンGRESの企画について……………5	学会誌第20巻第2号投稿原稿の募集……………7
「災害について考える」④……………5	理事会議事録報告(要旨)……………8
私の県の「ここが特色」⑩……………6	事務局より……………8
2016年度「研究助成金研究」の経過報告……………6	編集後記……………8
トピックス「養護教諭関係団体連絡会の取り組みについて(報告)」…6	

### 日本養護教諭教育学会

#### 第24回学術集会(北海道)のお誘いと企画紹介

学会長 今野 洋子(北翔大学)

爽やかな秋を迎え、会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。第24回学術集会が近づいてまいりました。改めて、お誘いと企画紹介をさせていただきます。

メインテーマは「子どもの未来を拓く養護教諭の力ーチーム学校への挑戦ー」としました。果たして、子どもの未来は拓かれるのでしょうか。子どもの可能性をつぶさないように、子どもの可能性を育てていく必要があります。しかし、このことは養護教諭ひとりが背負うことのできるものではありません。そこで、チーム学校として養護教諭の専門性を生かして、協働することが期待されています。いま、学校そのものに「かかわる力」が求められています。必要な養護教諭の力を追究する有意義な学術集会にしたいと考えています。

学術集会第一日目の午前中は、開催前に理事会主催の恒例のプレコンGRESを行います。学術集会の最初には、「子どもの未来を拓く養護教諭の力ーたしかに専門性に立った連携と協働ー」というテーマで基調講演をさせていただきます。次に、特別講演「食品の安全と健康：子どもの健やかな成長を願って」と題し、内閣府食品安全委員会委員長 佐藤洋氏(東北大学名誉教授)にご講演いただきます。パネルディスカッションは、メインテーマと同じテーマで企画いたしま

した。コーディネーターは、本学会の後藤ひとみ理事長と古賀由紀子常任理事をお願いいたしました。パネリストである大澤真平氏(札幌学院大学)に課題提示をしていただき、田村千波氏(北海道教育委員会SSW)、金澤多希子氏(札幌市SC)、今富久美子氏(神奈川県立上矢部高等学校養護教諭)、入駒一美氏(岩手県立一関清明支援学校副校長)より、ご提案をいただきます。

第二日目は、一般演題、ランチョンセミナー、セミナーがあります。一般演題では口演17題、ポスター20題の申し込みをいただきました。各会場で、研究交流が深まりますことを楽しみにしています。研究発表の後、総会となります。昼食は企業の協賛によるランチョンセミナーにご参加ください。午後のセミナーは 弁護士である佐々木泉顕氏(佐々木総合法律事務所)の「いのちの問題をめぐって、訴訟問題にどう向き合うか」、新川貴紀氏(北翔大学)の「こころの問題が起きた時、子どもをどう守るか」、本学会の学術担当理事による「養護教諭の日常から生じた課題に研究的にどう取り組むか」の3題を企画いたしました。

9年ぶりの北海道での開催となります。10月の北海道は、紅葉の時期が終わって、大雪山の初冠雪の便りを聞く、冬の始まりの季節です。寒さに驚かれるかもしれませんが、実行委員一同の熱い思いに、すぐに寒さを忘れることでしょうか。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

## 日本養護教諭教育学会 第24回学術集会プログラム

(2016年8月12日現在)

### メインテーマ「子どもの未来を拓く養護教諭のカーチーム学校への挑戦」

期 日：2016年10月8日(土) 13:00～9日(日) 15:50

会 場：北翔大学(江別市文京台23番地)

#### ◀10月8日(土) 9:30～受付 PAL玄関ホール▶

◇プレコンgres (10:00～12:00) 649教室……………日本養護教諭教育学会理事会・学会活動委員会  
「養護教諭の倫理綱領」における養護実践基準を考えるー専門性を生かした実践の検討を通してー

◇学会長基調講演 (13:00～13:30) 722・723教室……………座長 河田 史宝(金沢大学)  
「子どもの未来を拓く養護教諭のカーチーム学校への挑戦」 今野 洋子(北翔大学)

◇特別講演 (13:40～14:40) 722・723教室……………座長 今野 洋子(北翔大学)  
「食品の安全と健康：子どもの健やかな成長を願って」  
内閣府食品安全委員会委員長 佐藤 洋(東北大学名誉教授)

#### ◇ パネルディスカッション (14:50・17:20) 722・723教室

テーマ「子どもの未来を拓く養護教諭のカーチーム学校への挑戦」

コーディネーター 日本養護教諭教育学会理事長 後藤ひとみ(愛知教育大学学長)  
日本養護教諭教育学会常任理事 古賀由紀子(九州看護福祉大学准教授)

パネリスト 大澤 真平(札幌学院大学准教授)  
田村 千波(北海道教育委員会SSW)  
金澤多希子(札幌市スクールカウンセラー)  
今富久美子(神奈川県立上矢部高等学校養護教諭)  
入駒 一美(岩手県立一関清明支援学校副校長)

#### ◇懇親会 (17:30～19:30) 北翔大学 PAL 4階

#### ◀10月9日(日) 9:00～受付 PAL玄関ホール▶

#### ◇総 会 (11:10～12:10) 722教室

◇ランチョンセミナー (12:10～13:10) 723教室……………座長 花田えりか(札幌市立厚別南中学校)  
「成長曲線をつける事の重要性と子どもの成長障害」 鞆嶋 有紀(鳥取大学)

◇ランチョンセミナー (12:10～13:10) 722教室……………座長 渡部 基(北海道教育大学)  
「電磁波の健康リスク評価 ①-WHOの国際電磁界プロジェクトを中心にしてー」  
大久保千代次(一般財団法人電気安全環境研究所 電磁界情報センター)

#### ◇セミナー (13:20～15:50)

○セミナー① 722教室  
「いのちの問題をめぐる、訴訟問題にどう向き合うか」 講師 佐々木泉顕(佐々木総合法律事務所 弁護士)

○セミナー② 723教室  
「こころの問題が起きた時、子どもをどう守るか」 講師 新川 貴紀(北翔大学)

○セミナー③ 732教室  
「養護教諭の日常から生じた課題に研究的にどう取り組むか」

講師 学術担当理事：鈴木 裕子・河田 史宝・塚崎加寿子

- ◇口演発表Ⅰ（9:30～10:15） 722教室……………座長 齊藤ふくみ（茨城大学）  
 <原論、歴史>  
 I-1 養護実践の理念や倫理綱領の具現化に関する研究②  
 -健康診断における養護実践を倫理綱領から検討・考察する- ○中村 朋子（茨城大学）他  
 I-2 チャイルドライフスペシャリストに聞く子どもへの対応  
 -養護教諭との共通性及び養護教諭の職務に生かせること- ○小堀 杏子（札幌市立清田南小学校）他  
 I-3 学校ホームページにおける学校保健に関する情報の公開について  
 ○野村 真美（希望学園札幌第一高等学校）他
- ◇口演発表Ⅱ（9:30～10:15） 723教室……………座長 北口 和美（近大姫路大学）  
 <養成教育>  
 II-1 専門職的自律性を養うボランティア活動に関する研究 ○竹内 理恵（徳島文理大学）他  
 II-2 養護教諭の教職キャリア形成に関する一考察-教職履修カルテを活用して-  
 ○貴志知恵子（徳島文理大学）他  
 II-3 養護教諭免許の校種別教育体系の確立についての一考察-特別支援学校養護教諭の養成教育の視点-  
 ○大野 泰子（鈴鹿大学短期大学部）
- ◇口演発表Ⅲ（9:30～10:15） 734教室……………座長 加藤 晃子（滝学園滝中学校滝高等学校）  
 <保健管理>  
 III-1 養護教諭のアレルギーに関するヒヤリ・ハットの実態（第1報）  
 ○芦川 恵美（埼玉県立総合教育センター）他  
 III-2 養護教諭のアレルギーに関するヒヤリ・ハットの実態（第2報）  
 -アレルギー既往がある子供が発症した事例- ○澤村 文香（所沢市教育委員会）他  
 III-3 養護教諭のアレルギーに関するヒヤリ・ハットの実態（第3報）  
 -アレルギー既往がない・わからない子供が発症した事例-  
 ○道上恵美子（埼玉県立草加東高等学校）他
- ◇口演発表Ⅳ（9:30～10:30） 732教室……………座長 塚原加寿子（新潟青陵大学）  
 <健康教育>  
 IV-1 養護教諭が行う食に関する指導への一考察 ○岡崎由美子（学校法人就実学園就実小学校）  
 IV-2 小学校の養護教諭の「保健の授業」に関する意識調査 ○岩田 礼子（仙台市立立町小学校）  
 IV-3 性に関するピアエデュケーション活動における一考察  
 ~性に関するピアエデュケーション授業を通して~ ○徳橋 知子（名桜大学）  
 IV-4 生活習慣の定着に向けて実践できる力を育む保健教育のあり方についての一考察  
 ~養護教諭が中核的な役割を担う保健指導を通して~ ○本岡 千草（尾道市立向東小学校）他
- ◇口演発表Ⅴ（9:30～10:30） 733教室……………座長 平井 美幸（大阪教育大学）  
 <組織活動>  
 V-1 養護教諭が捉える児童虐待対応における改善要因の検討 ○鹿間 久美子（京都女子大学）他  
 V-2 子ども心の問題解決に向けたスクールソーシャルワーカーとの協働における養護教諭の役割  
 ○富永早百合（赤穂市立高雄小学校）他  
 V-3 小学校養護教諭のキャリアレジリエンスと学級担任との協働  
 -社会生活上の課題を抱えている子どもへの関わりを焦点として-  
 ○小野 美保（紫波町立片寄小学校）  
 V-4 島しょの自然災害から考察する被災地の養護教諭の役割（第三報）  
 -2013年 伊豆大島の土砂災害に関する養護教諭対象のインタビュー調査の質的分析から-  
 ○飯嶋 美里（常磐大学高等学校）他

- ◇ポスター発表Ⅰ（9:30～10:30） 731教室……………座長 松永 恵（茨城キリスト教大学）  
 <原論、歴史>  
 P-I-1 養護教諭養成における養護学の内容構成に関する考察 ○横島三和子（相愛大学）他  
 <養成教育>  
 P-I-2 学生が考える理想の保健室とは～教職実践演習での取り組みからの一考察～  
 ○城戸 裕子（愛知学院大学）
- P-I-3 養護教諭志望学生の「保健室ボランティア」による力量形成に関する研究（1）  
 ～学生のインタビュー調査結果から～ ○江崎 和子（園田学園女子大学）
- P-I-4 養護教諭養成大学における「看護学」領域のカリキュラムに関する検討 ○廣原 紀恵（茨城大学）他
- ◇ポスター発表Ⅱ（9:30～10:30） 735教室……………座長 小笠原麻実子（札幌市立北白石中学校）  
 <制度>  
 P-II-1 男性養護教諭に関する意識調査 ○大川 尚子（関西福祉科学大学）  
 <現職教育>  
 P-II-2 養護教諭の行う健康相談活動で必要とされる能力ー健康相談活動の現状からみえてきたことー  
 ○村越 稀帆（鈴鹿大学短期大学部 専攻科健康生活学専攻）
- P-II-3 1年目を終えた養護教諭が新任養護教諭に送るメッセージ ○鈴木 薫（就実大学）
- P-II-4 新任養護教諭における職務上の困難感の実態ー新任養護教諭のインタビュー調査からー  
 ○上原 美子（埼玉県立大学／筑波大学大学院）他
- ◇ポスター発表Ⅲ（10:00～11:00） 735教室……………座長 西野 昭子（北海道札幌開成高等学校）  
 <保健管理>  
 P-III-1 養護教諭が行う健康相談におけるヒヤリハット事例の検討  
 ー養護診断による対応ポイントに関する一考察ー ○渡辺 美恵（関市立緑ヶ丘中学校）他  
 P-III-2 学級担任が行う健康観察に関する実態調査 ○小林 央美（弘前大学）他  
 <組織活動・保健室経営>  
 P-III-3 保健室の機能および養護教諭の役割の分析ー高校生の視点からー ○柏谷 董（北翔大学）他  
 P-III-4 養護教諭と保健体育科教諭との連携に関する一考察 ー救急処置・保健教育を中心にしてー  
 ○鈴木 麻美（鈴鹿大学短期大学部 専攻科健康生活学専攻）
- ◇ポスター発表Ⅳ（9:30～10:30） 736教室……………座長 圓岡 和子（愛知県立三好高等学校）  
 <その他>  
 P-IV-1 おしゃれ障害に関する意識および行動 ー大学生対象の調査からー ○京谷 梨菜（北翔大学）他  
 P-IV-2 北海道の大学生における生活習慣の変化と健康 ○角田 詩織（北翔大学）他  
 P-IV-3 Twitter・Facebookの心理的効果と使い分けについて ○金井 美穂（北翔大学）他  
 P-IV-4 小学生の食習慣と心身の健康状態との関連 ○木下 紗希（北海道教育大学）他
- ◇ポスター発表Ⅴ（10:00～11:00） 736教室……………座長 矢野 恵理（北海道札幌藻岩高等学校）  
 <その他>  
 P-V-1 高校生との対応場面で用いられるオノマトペの特徴と教育的意味  
 ○菅原 優子（秋田県立平成高等学校）  
 P-V-2 性別違和を持つ子どもたちの悩みについての一考察ー性同一性障がい当事者の視点からー  
 ○笠井 瑞紀（鈴鹿大学短期大学部 専攻科健康生活学専攻）
- P-V-3 大学生における親子関係と基本的対人態度の関係性について ○後藤 花菜（北翔大学）他  
 P-V-4 子どもの問題構造の可視化とアセスメントを支援するための動的リンク機構の開発  
 ○岡田 雅樹（大阪人間科学大学人間科学部）他

## プレングレスの企画について

三木とみ子（学会活動担当常任理事）

養護教諭の倫理綱領が、昨年の総会において承認されました。倫理綱領は養護教諭が専門職を標榜する上で欠かせない要件であり、現在、各地で活用されつつあります。ただし、第13条の「養護実践基準」については別に定めると規定しており、理事会は学会活動委員を中心に作成作業を進めています。

そこで、北海道の第24回学術集会のプレングレスで養護教諭の日々の実践を通して養護実践基準について考えることを目的にワークショップを行い、第13条の具体化について検討する機会を設けました。検討に当たっては、公にされている養護教諭の職務役割を切り口にそれぞれの養護実践基準を作成してみたいと思っています。

プレングレスは、例年学会初日の午前の時間に会員、会員外に拘わらず自由に参加できる企画です。学術集会（ングレス）の前（プレ）に開催することで、学術集会のテーマに迫ったり、参加意欲を高めたりすることができます。

本学会では、教育の最新の動向に関わる内容についての討論、学会で抱えている課題についての意見交換などをテーマにしてきました。プレングレスは「何かを決議する」とか「承認する」などのものではなく、会員の意見や考え方の傾向を把握し学会活動の参考にさせていただくというものです。今年は養護教諭の倫理綱領第13条における養護実践基準について検討したいと思います。会員の皆様の積極的な参加をお待ちいたします。

### 「災害について考える④」

#### 「熊本地震発生から四ヶ月過ぎた今…」

米井美紀子（熊本県宇土市立緑川小学校）

夏休みに入り、猛暑日が続く中、プールで遊ぶ子ども達の元気な声に癒されています。

地震発生直後は安否確認、衣食住の確保、ライフラインの復旧、学校再開後は子ども達の心身のケア、実態把握と報告、休校で変更になった定期健康診断の日程調整と実施等、優先順位が次々と変化しました。

本校は市職員と長崎県からの支援の方々や体育館に交代で常駐されたので、学校職員が避難所支援で泊まることはありませんでした。そのため、児童の家庭訪問や学校の片付け、再開後の検討等に当たることができました。被害が大きかった地域よりも早く4/26(多

くは5/10学校再開)には学校再開し、一緒に保健室で泣いていた子ども達も日が経つにつれて地震前の生活に戻ってきました。5月下旬頃になると、大人の疲労や心の変化が現れはじめ、心のケアも地震前から関わっていた子どもや保護者が受けられたダメージへのケアが中心になってきました。「車で寝たいけど親に言えない」「津波が来たらどうしよう」など子どもの不安に全職員で寄り添ってきました。そんな中、子どものことで健康相談を行っていた保護者が「先生、トイレに一人で行けなかったのは私なのです。聞いてもらってよかった。」と話をされました。日常の関わりが大事だと改めて実感しました。

私は、自主研である「くまもと養護教諭塾」で仲間と学び合っています。今回の地震でも、この「くま養教塾」のメンバーにも助けてもらいました。熊本大学の松田芳子先生や瀬口久美代先生から塾メンバー全員にメール配信、三木とみ子先生からのお見舞いのメールやマニュアルなども添付して頂き、仕事につなげました。地震発生一ヶ月後5/14(土)に塾の開催。離れられない我が子連れて、ただただ、先生方の顔をみたくて参加しました。前に進むパワーをもらい、子どもの実態把握や心のケアなどの取組を出し合ったり、継続した学び合いを行ったりして、毎日の仕事に生かすことができているのではないかと思います。

今回の熊本地震で「日頃の管理や連携が非常時に表れる」「危機管理は日常管理」という三木先生のことばを思い知りました。現在、「くま養教塾」の清水美夏子先生を中心に地震後の養護教諭の活動をまとめています。

被災が大きかった地域では、倒壊したままの家屋や道路の寸断、仮設住宅での生活等、地震発生前とは変わり果てた毎日が続いています。関西や東北の大震災後も取り組まれてきたように、出来るところから、被災した地域の養護教諭だからこそ実感したことをまとめて今後に生かしたいと思っています。

様々な県の先生方からご心配頂き、お見舞いや励ましのお言葉、ご支援を頂き、心より感謝申し上げます。

「熊本は、がんばるモン！」



「仲間同士、未来を見据え、  
力量アップをめざす」

五十嵐利恵 (越前市花筐小学校)

平成29年度で創設70周年を迎える福井県養護教諭研究会は、県内の小・中・高等学校養護教諭が全員加入し、組織を構成しています。研究実践活動の中心となる研究協議会と、総会、研修会などを年1回ずつ持つとともに、年間事業計画をもとに、支部ごとに研究活動を行っています。

毎年開催される研究協議会では、7つの分科会を設け、研究発表と熱心な研究討議がなされています。

組織としては、県内各支部より理事が選出され、調査研究班は、研究会としての課題に関する調査を行い、研修班は研究協議会の企画運営と研修企画を、なかま編集班は養護教諭の力量アップに向けての実践や研究成果を研究誌「なかま」にまとめ、年度末に発行しています。

また、「平成16年7月18日福井豪雨」の際、福井県養護教諭研究会は養護教諭サポート隊を結成し、災害を受けた子どもたちに心のケアに重点をおいた支援活動を行い、組織として大きな成果をあげたことから、翌17年度、災害時の養護教諭の支援のあり方や研究会組織の役割について、今後も継続的に検討が必要と判断し、「災害時支援委員会」を発足させ、以後、数人のメンバーを委員として委嘱し、活動の継続のための内容の見直しと、支援物資の点検・整備を行っています。

他にも、県内の養護教諭同士の連携を深め、共に学んでいく場として、研究会のホームページを立ち上げ、活動状況の記録や会報誌も年3回アップしています。研究協議会や研修会の実施後のアンケートなどは、以前は各支部で集約したり、研修会直後に記入していたりしていましたが、各自がホームページの会員専用画面から、直接入力するようになり、そのまとめをホームページ作成委員が担当しています。また、ホームページには保健室紹介のほか、教材・教具や便利グッズの紹介、ヒヤリハット情報をのせ、仲間同士の学び合いを促すようにしています。

近年は、福井県の施策と連動し、全県の幼保・小中学校で、裸眼視力の低下を防止すること、う歯のない子を育てること、う歯保有者の治療率を上げることをねらいとして、「子どもの目と歯の健康プロジェクト」を展開しています。指導に生かせるリーフレットや紙製歯科模型、染め出し剤が小中学校に県教委から支給され、学校歯科医の全面協力を受け、各校で工夫しながら保健指導を実践しています。

地域の活動としては、「実践研究検討会ふくい」「福井ヘルスカウンセリング研究会」「保健指導のための教材づくり」などの、自主研究会が各地で継続して行われ、それぞれ仲間研究、後輩育成、力量アップを図っています。福井県養護教諭研究会は340名ほどの組織ですが、小中高の相互交流を活発に行い養護教諭同士が高め合っています。

## 2016年度「研究助成金研究」の経過報告

鹿野 裕美 (宮城大学)

このたび2016年度研究助成金研究として研究を採択していただきましたこと、感謝申し上げます。申請時のテーマは、「養護教諭養成教育における養護原理の理解深化のための教育プログラム開発～養護教諭とのかかわりを通じた養護原理の探索的概念生成の試み～」としましたが、採択にあたっては、①テーマをより簡潔に整理すること、②「養護原理」という用語について吟味すること、という条件をいただいております。このことにつきましては、理事の皆様方、また会員の皆様方に多大なご迷惑やご心配をおかけしてしまいましたこと、心からお詫び申し上げます。現在はご指摘をふまえ、新テーマを「養護教諭養成教育における養護の本質を理解するための教育プログラムの開発(仮)」として、研究を進めておりますこと、この場をお借りしましてご報告申し上げます。共同研究者は、鎌塚優子(静岡大学)、齋藤千景(十文字学園女子大学)です。

テーマを「養護の本質を理解する」と変更したことにより、当初予定していた研究方法ならびに教育プログラムに若干の修正が必要となりましたが、むしろ、養護の本質を理解するという大きな目標に向かって研究活動を進めることが可能となりました。また、研究者自身もこのテーマを深く考え、そして相互に学びながら教育プログラムを開発しています。

学会員の皆様のご理解とご支援をいただけますと幸いです。今後ともよろしくお願い申し上げます。

### トピックス

## 養護教諭関係団体連絡会の 取り組みについて (報告)

理事長 後藤ひとみ

前号において、「中央教育審議会答申に基づく施策にむけた養護教諭関係団体連絡会の取り組み」と題した報告を致しました。その中で、養護専門科目の検討を進めていること、5月末にヒアリング予定であることを述べました。本報は、その続きになります。

## 第24回学術集会での 「投稿奨励研究」の推薦について

学術担当常任理事 鈴木 裕子

一般演題の中から学術集会学会長、座長、理事の推薦に基づき「投稿奨励研究」を選定します。特典として査読費用7,000円が免除されます。養護教諭教育の発展につながる演題発表を期待しています。

なお、前号で示した「助成金研究」の応募締切は9月10日です。積極的なご応募を期待しております。

## 学会誌第20巻第2号の投稿原稿の募集

(2017年3月発刊予定)

編集委員 岡本 啓子

本学会誌は養護教諭や養護教諭を目指す人が、ここで学び成長し、指針とし、糧とするものです。会員の皆さまが課題を持って取り組んだ研究を、是非まとめて投稿していただくことをお願いいたします。

発刊は、本学会誌の発刊は、9月末と3月末の年2回されていますが、投稿原稿の受付は、毎年度9月末に発刊される第1号への投稿分は3月31日必着、毎年度3月末に発刊される第2号への投稿分は9月30日必着となっています。締め切りが迫る2016年9月30日必着の第20巻第2号(2017年3月末発刊予定)への掲載をご希望される会員の皆さまは、準備いただいて9月30日必着でお送りください。

投稿される際には、投稿規定及び投稿原稿執筆要領(第19巻第2号 p.102~p.105)をお読みいただき、十分に推敲した原稿をご投稿ください。また、投稿時のチェックリスト(第19巻第2号 p.109)を使用いただくことで、確認できるようになっています。ご活用をよろしくお願いいたします。

編集委員会において、研究論文であるという観点から指摘されていることを紹介します。研究論文作成過程において、ご留意ください。

- ①文献検討が不十分
- ②明確な課題(問題)抽出がないために研究目的が明確でない
- ③妥当な研究方法が使用されていない
- ④図表の大きさ・多さや規定枚数の超過
- ⑤論文に一貫性がなく、論旨が不明瞭

編集委員会では、よりよい論文となるよう査読と修正を繰り返す場合もございますので、会員の皆さまにはご了承いただき、ご協力をお願いいたします。

次号となります第21巻第1号(2017年9月発刊予定)以降の本学会誌投稿を視野に入れていただき、昨年の

4月以降の連絡会代表者会議及び検討WGは、4月10日、5月8日、5月29日、7月10日に開催しました。毎回、時間をかけて行ってきた検討WGでは、まず、中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」(以下、中教審)で述べられている教諭の現状と課題や今後の方向性を養護教諭に当てはめてみるという作業を重ね、教諭と同様に、これからの学校教育を担う養護教諭の資質能力を考える上での資料を作成しました。

教員免許科目については、中教審が示している科目区分の再編(3区分を5区分にする)をふまえて、現行の「養護に関する科目」に対する各団体の意見をもとに、現行のままの科目、名称変更する科目、新規に設ける科目を柱にして協議し、養護教諭の資質能力を反映した専門科目の内容や名称を検討しました。

これらの内容は、5月30日と31日に行われたヒアリングで検討中の案として健康教育・食育課に紹介しました。8月31日には、第1回「これからの養護教諭・栄養教諭のあり方に関する検討会議」が開催予定で、委員に養護教諭関係団体連絡会会長の後藤と全国養護教諭連絡会の木嶋会長が委嘱されました。現在、代表者会議の議を経て、新文部科学大臣への要望書を準備するなど、養護教諭の未来に向けて頑張っています。

## 日本養護教諭教育学会2016年度総会告示

理事長 後藤ひとみ

下記の日程で2016年度総会を開催致します。

欠席される方は、同封の委任状を9月30日(金)必着にてお送り下さい。

- ☆日 時：2016年10月9日(日)  
11:10~12:10
- ☆場 所：北翔大学 722教室
- ☆議 題：1. 2015年度事業報告  
2. 2015年度決算・監査報告  
3. 2016年度事業経過報告  
4. 2016年度補正予算審議  
5. 2017年度事業計画  
6. 2017年度予算審議  
7. 研究助成金研究に関する内規の改正  
8. 研究助成金研究の選定  
9. 選挙管理委員会委員の選出  
10. 名誉会員の推戴  
11. 第24回学術集会(2018年)開催地  
12. その他

第23回学術集会で発表された研究、また今年度の第24回学術集会で発表される研究を論文としてまとめ、投稿いただくこともご検討ください。

最後になりましたが、皆さまの論文投稿を心からお待ちしております。ぜひ学会誌へ論文でご参加ください。

#### <編集委員会事務局>

〒310-8512 水戸市文京2丁目1番1号  
茨城大学教育学部教育保健教室 斉藤ふくみ  
TEL/FAX 029-228-8298 (研究室直通)  
e-mail: fukumi.saito.naru@vc.ibaraki.ac.jp

## 理事会議事録報告 (要旨)

総務担当常任理事 古賀由紀子

#### <2016年度第1回理事会報告>

1. 日 時：2016年4月9日(土) 13:00~16:30
2. 場 所：名古屋市公会堂 3F 第五集会室
3. 出席者：後藤、大川、加藤、河田、古賀、小林、  
斉藤、鈴木、塚原、圓岡、三木  
欠席者：宮本、森
4. 議 事

- 1) 第24回学術集会(北海道)の進捗状況について
- 2) 2015年度活動報告について  
理事長及び総務、学会活動、学術、学会誌編集の各理事より2015年度の活動が報告された。
- 3) 2016年度活動計画について  
理事長より2016年度の重点活動として、前年度に対処できなかった事項に加えて、「養護教諭の倫理綱領」の養護実践基準の検討を行うことが提案され了承した。また、総務より学会規約改正の検討、学会活動より養護実践基準の検討、学術よりHPの整備と人材バンクの整備、学会誌編集より投稿規定の改定と査読者確保のためのリスト作り等の重点活動が報告され了承した。
- 4) 養護教諭関係団体連絡会の取り組みについて  
「養護教諭の資質能力検討WG」の分析および「研修」関係の分析を踏まえて、省令改正を視野に入れ夏までに作業を終了することを確認した。

### 事務局より

圓岡 和子(事務局長)

#### ●住所等変更はお早めに連絡を!

転勤・就職などで連絡先が変更になった方は、メールかFAXにて事務局まですみやかにご連絡ください。特にお届け先を勤務先に指定している方は、転勤・転

職が決まりましたら、事務局にもご一報下さい。

なお、FAXの場合は送信時のオモテ・ウラにご注意ください。(年に1件程度白紙が届きます。)

#### ●学術集會内に事務局ブースを開設します

第24回学術集會の会場内に本部事務局を開設します。年会費の納入の他、新入会の受付、会員登録の変更などの諸手続きができます。まだ年会費を振り込まれていない方も、どうぞご利用下さい。また、学会誌の販売も行っています。通常は非売品としている第9巻第1号以降の学会誌も、学術集會中に限り販売しています。学会員以外の方も購入できますので、この機会にどうぞお買い求め下さい。

#### ●委任状の提出をお願いします

2016年度総會に欠席される方は委任状の提出をお願いします。同封した委任状に必要事項をご記入の上、52円切手を貼って事務局までお送り下さい。

#### ●年会費の納入をお願いします

年会費をお支払いされていない方は、できるだけ早く納入してください。

#### ●「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集<第二版>」販売中です

用語の解説集を会員外の方にも有料でお譲りしています。10冊以上で申込まないと送料無料で。まだお持ちでない方にどうぞご紹介ください。お申込みは事務局まで。

## 編 集 後 記

2016年8月5日から21日までの17日間、ブラジルのリオデジャネイロで第31回夏季オリンピックが開催されました。日本は史上最多のメダルラッシュに沸きました。4年に1度の大会に向けて国内予選を突破し、大会期間中に心身ともにコンディションのピークを合わせるのには並大抵のことではありません。ケガの予防も日頃から自分のからだの変化を見逃さないように細心の注意が必要とのことです。公私ともに私たちも見習いたいところです。

季節や環境の変わり目は乗り越えるのに力が必要です。9月とはいえ、まだまだ暑い日が続きます。子どもの健康管理と共に、先生方も十分にご自愛ください。

(N. O)